

喜多製材所

〈事業計画名〉吉野林業の新たな挑戦 おが粉と精油を活用した木材総合ビジネスの展開



建築用途依存からの脱却 「ひのき精油」高品質化による販路新開拓

事業の背景 ▶▶▶

自社開発品の原料調達と品質改善

昨今の国内木材産業の市場は縮小が続き、吉野材の主用途である住宅用建材の需要も低迷が続いている。

その中で、当製材所では1994年より建材以外の製品開発に努め、現在は「ひのき精油」「おが粉（おがくず＝挽き粉）」を主力製品として展開している。

しかし、どちらも建材生産時に副次的に発生する廃棄物である「おが粉」を原料としていた為、建材生産量に依存する形になり、調達量に制約があった。

そこで生産体制の見直しと合わせて「ひのき精油」の品質を向上させ、精油抽出時に着色してしまう面を改良し、より多角的な販路開拓となる「木材総合ビジネス」化を計画し、本事業の実施を決定した。

事業に先駆けて「おが粉製造機」を導入し、廃材や低価値材を原料とする「おが粉」生産体制を整え、建材生産に依存することなく原料調達が可能となったため、本事業では「ひのき精油」の生産量拡大と品質向上を目標とした。

事業の成果 ▶▶▶

自社完結の加工生産プロセスの完成

本事業にあたっては、精油抽出における抽出機を刷新。従来の減圧温熱循環式ではなく、水蒸気蒸留式を導入した。

これにより、従来の方式では釜の素材と精油成分が反応し、ピンクの着色が残ってしまい、工業用原料には不向きな製品となっていたが、水蒸気蒸留式を用いる事で着色を抑え、香りの持続性が高い精油の製造が可能となった。

これにより、従来は香料用として中小ユーザーの限られた販路だったものが、工業用原料として大口のメーカーに対しても対応が可能となり、生産量の拡大に加え販路の開拓が実現。

原料の「おが粉」生産から続く、加工生産プロセスが完成した。



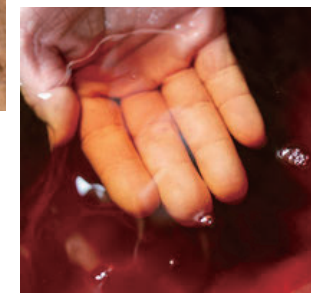
喜多製材所の概要 ▶▶▶

「吉野のエジソン」が生み出す製品群

当製材所は1960年創業で、以来60年に亘って、ひのき専門の製材所として稼働している。

創業当初は建築用木材の製材事業を展開していたが、近年の建材需要の低迷を受け、1994年より代表が率先して建材以外の木製品開発を開始。現在に至るまでに開発した製品群は30種以上に及び、その数の多さから「吉野のエジソン」という二つ名で呼ばれる。

現在では開発した製品の中でも「ひのき精油」「おが粉」を主軸に、いくつかの「癒し加工品」を加えた建材以外の製品が当製材所の主力商品であり、売上の7割以上を占めている。



喜多製材所の強み ▶▶▶

木材総合ビジネスによる建材依存脱却

主力商品とはいえ、「ひのき精油」「おが粉」自体は独自性が無く、それぞれを専門的に製造販売している企業は他にも存在する。

しかし、異業種である香料会社と事業提携し、ブランド材である吉野材の中でも価値の低い間伐材・曲材・節材・虫食い材・端材を余すところなく使い、「ひのき精油」「おが粉」双方の原料化・製品化まで自社で完結させる加工生産プロセスを「木材総合ビジネス」として展開する点は当製材所の強みであり、世界的に見ても類を見ない。

当製材所のような木材総合ビジネス展開は、建材需要低迷の対策、吉野材ブランド強化、吉野木材業界全体の活性化に繋がると考えている。今後も事業の安定化と、新製品の開発に努めていきたい。

喜多製材所の製品 ▶▶▶

「吉野ひのき」から「吉野ひのき精油」「吉野ひのきおが粉」で再ブランド化を狙う

主力看板商品である「吉野ひのき精油（エッセンシャルオイル）」は自社生産の「吉野ひのきおが粉」より抽出し、香料用・工業用原料・一般用として展開。精油抽出時に発生する「水」についても「吉野ひのき樹液水（フレグランスウォーター）」として販売し、その他には「枕」「石鹸」「まな板」や、ひのき以外の材を使用した木製品を扱う。



喜多製材所

業 種 分 類 木材・木製品製造業

事 業 内 容 ひのき精油・樹液水・おが粉・その他癒し加工品の製造販売・建築用木材・無垢フローリングの製造など

代 表 者 名 代表 喜多 繁彰

所 在 地 奈良県吉野郡吉野町橋屋57-15

連 絡 先 TEL:0746-32-2268／FAX:0746-32-2085

ホームページ <https://www.hinoki.pro/>

E-MAIL kitaseizai@chive.ocn.ne.jp